■編集・発行／石狩市企画経済部秘書広報課　〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2 Tel.0133-72-3145 Fax.0133-74-5581
【HP】http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/　【携帯電話用HP】http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/mobile/　【Eメール】hisyokoho@city.ishikari.hokkaido.jp
■制作／(株)キューブコーポレーション
■印刷・製本／(株)アイワード
■配布問合せ／(有)スポット企画 ☎0133-73-5444
厚田区・浜益区は各支所へ　厚田 ☎78-2011　浜益 ☎79-2111

広告

◎石狩随想 99

歌につけ

雪国にとって雪をどう捉えるか、生活環境によって違うだろうが、除雪を思うと厳しさばかり先行してしまう。ところで「雪の降る町を」は、歌詞の創造感とショパン流のメロディーから長く親しまれてきた。中田喜直氏の作曲で、多くの日本人の内耳に留まり、口ずさむことの多い名曲だ　▼ただ、この雪の降る町はどこなのか気になっていた。最近、山形県鶴岡市であることがわかった。鶴岡は浜益の陣屋をつくり、千両堀を今に伝えた庄内藩の城下町で、石狩に縁のあるだけに妙に嬉しくなった。同氏は「夏の思い出」「ちいさい秋みつけた」など日本の四季を愛し、土地の潜在的価値をも発見することを作曲での大切な要件と捉えたことは容易に想像できる　▼本市も昭和29年第5回NHK紅白歌合戦のトリ曲として霧島昇による「石狩エレジー」、次いで三橋美智也の「石狩川悲歌」、北島三郎の「石狩川よ」などが浮かんでくる。土地と歌謡曲、童謡は密接に関係しているものが意外と多い。「歌は世につれ、世は歌につれ」の名司会者玉置宏氏の名調子が過ぎるなかで、土地柄を誇りとし、歌詞に喜びを感じながら励んだその風土が、コンピューター投票でランキングを決める現代に困惑するばかり。今宵は近所のスナックで「※君と歩いた石狩の　流れの岸の幾曲り…」でも熱唱しよう。どこまでも石狩だ。　（市長）

※石狩川悲歌より

まちの情報はインターネットテレビでもぜひチェックしてください！　ERIS えりすいしかりネットテレビ　http://www.i-eris.tv/　R100